

——スポーツのほかにも、そうした才能をお持ちだったのでですね。「孔雀画廊」では、スケートと仕事との両立に理解が得られたのでしょうか。伊賀…スケートで国民体育大会やインターハイに行くと、仕事を2週間くらい休まなければなりません。小関社長にそのことを話すと、小関社長は快く「大丈夫だよ」と承諾してくれました。もちろん、京橋書店の太田社長にも話をしました。太田社長も「君の将来のためになるなら」と快諾してくれました。それで、孔雀画廊に勤めることにしました。画廊の出勤時間は10時半でしたので、すぐく楽になりました。そうすると、スケートもどんどん上達していきました。全国高等学校体育連盟などの東京都で行われた大会は、ほとんど優勝していたと思います。

——思い出に残っている大会は、どの大会ですか。

伊賀…100近く大会に出場していましたが、全部は覚えていませんが、よく覚えているのは、帯広市で開かれた高校1回目のインターハイです。「伊賀」という名前がコールされると、会場がざわざわしたのを覚えてます。私のスケート人生は、帯広市でスタートしましたので、思いつきの地は、やはり道東です。19

70年に広島で開催された全日本ショートトラック・スピードスケート競技会もよく覚えてます。私が20歳で日本記録を出した大会です。

——20歳のころに日本記録を出していたのですか。

伊賀…高校が一年遅れましたので、卒業したのは20歳のころです。そのときには日本記録を出していましたが、大学からスカウトも来ましたが、お金がなかったので大学には行けませんでした。それで8年間、通信教育を受けていたのですが、仕事が忙しくなり途中で断念しました。それでも自分でいろいろな勉強をしました。心理学なども学びました。いろいろな方が絵を買いますので、あらゆる知識を身に付けておく必要があるのです。日々学ぶのは、勉強でもスポーツでも政治でも、何でもみんな同じだと思います。



東山魁夷先生 スケッチに同行する

History of Kujaku Gallery

孔雀画廊について

1958年東京室町に設立。創立者小関文吾は、小林古任・杉山寧画伯等の孔雀の絵に感銘し孔雀画廊と命名いたしました。また、画廊のロゴマークは杉山寧画伯に書いていただいたものです。阿南節は、日本画家を専門に、東山魁夷、杉山寧、高山辰雄、山本正人、平山郁夫、上村松篁などの展示企画展【五山会】【孔雀会】を開催いたしました。現在、代表取締役社長伊賀静雄は、1985年に独立。継承し25年東京銀座に画廊を構え、日本画・洋画企画展、百貨店企画販売、美術館等にも数多く作品を収めてきました。



上村松篁先生



杉山寧先生

店主について

1967年孔雀画廊に画廊として修行に入る。当時は高校生であったが仕事、学業、スポーツを両立し、スピードスケート競技で数々成績を挙げ、1978年にはショートトラックスピード英国世界大会（バーミンガム）において、1500m世界新記録2分35秒18記録を創り、1983年には東京都スポーツ功労賞を受けました。1985年、独立してからは、若手日本画家5人（小森精一・杉本洋・東俊行・平岡俊二・村田林蔵）の企画展「緑」を開催しました。また1989年、ドイツハンブルグでの東山魁夷展の際、画伯に同行いたしました。

東京都中央区にある「孔雀画廊」のパフレット。

——引退されたのは、何歳のときですか？

伊賀…仕事が忙しくなり、28歳で現役を引退したのですが、35歳のころに国民体育大会で「成年B」という部門ができてきて、それで35歳で現役復帰しました(笑)。1988年、群馬県伊香保町で開催された国民体育大会「成年B」1500mで2位になったのを最後に、38歳で引退しました。

——引退されるまで、仕事とスケートの両立は、本当に大変だったと思います。1985年に「孔雀画廊」の看板を継ぎ、独立されました。絵の仕事をしていると、いろいろな方との関わりが多くあると思いますが、伊賀…孔雀画廊のパフレットに、

日本画の大家である東山魁夷先生と私が一緒に写っているのですが、先生に同行させていただいたというこ

とが、スケートで世界記録をつくったよりもすごいことだと思つてます。それくらいすごい画家です。1977年に世界ショートトラック・スピードスケート大会がフランスのグルノーブルで開催されたのですが、ちょうどそのときにフランスのパリにあるプティ・パレ美術館で東山魁夷展をやっていました。私は宿舎から抜け出して見に行きました。この個展は、レオナルド・ダ・ヴィンチの「モナリザ」が日本に来たお返しにと、フランスで開催されたものです。東山魁夷先生は、奈良の唐招提寺に鑑真和尚坐像が安置されているのですが、その御影堂内の襖絵を描いた方で、その作品をフランスに持って行ったのです。本当に素晴らしい、感動しました。同じくパフレットに杉山寧先生という方が出ていますが、この方は三島由紀夫の義父で、私が30代のときにお付き合いが